

研究課題 (テーマ)		よろずレポート相談所 (年次を超えて学生同士が教え合い学びあう教育)		
研究者	所属学科等	職	氏名	
代表者	知能ロボット工学科	教授	高木 昇	
	知能ロボット工学科	准教授	高野博史	
	知能ロボット工学科	講師	澤井 圭	
	知能ロボット工学科	助教	玉本拓巳	
研究結果の概要				
<p><b>【1. 実施内容】</b></p> <p>大学院生と学部生(B4)が相談員となり、実験、演習、講義のレポートを下級生に指導する場として「よろずレポート相談所」の運営を行なった。学生同士が教え合い学び合うことで、下級生はレポートの質や理解度向上、相談員は指導能力や論文執筆能力の向上を狙った。</p> <p>昨年度までの問題点であった相談員への「質問する態度・マナー」の向上について、ガイダンスを通じて相談者に注意を行った。相談員へのアンケート調査の結果では、昨年度に比べて「質問する態度・マナー」が向上したとの声が増えた。一方で、相談員の指導能力の向上を期待する要望が教員からあり、指導した内容のメモや相談者の記録を取ることで相談員の意識向上に努めた。また、効率的な運用のために学生実験のレポート添削は時間予約制とした。</p> <p>平成30年度は、前期は月曜9-10限と火曜5-6限・9-10限、後期は月曜7-9限と金曜9-10限に西棟の講義室にてよろずレポート相談所を開設した。添削科目は、知能ロボット工学概論(B1)、物理実験(B1)、パターン情報処理(B2)、知能デザイン工学実験1・2(B3)であった。</p> <p><b>【2. 知能デザイン工学実験(B3)の実験報告書における効果</b> (*)アンケートによる調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相談時間の予約制については93%の学生が良かったと感じていた。理由としては、混雑による待ち時間が無いこと、予定が立てやすい(レポート作成の目安)ことがあげられた。</li> <li>91%の学生がレポート内容を改善できたと回答している。改善点としては、誤字や図表の作成能力や文章作成能力の向上が挙げられている。相談員の指導スキル向上や態度の改善、相談員・実施日の拡充などの要望があった。また相談員と教員の指導内容が違って困ったという意見もあったが、昨年度よりも件数は少なくなっている。</li> <li>相談員については、自己の学力向上に寄与し、論文作成のための勉強になったと80%の学生が回答した。自身の成長については、「自身の文章をしっかりチェックするようになった」、「他者に自身の文章を積極的に見てもらうようになった」という意見があった。</li> <li>教員からはレポートの体裁が整ったおかげで細かい指摘をしなくてよくなり、内容を指導できるようになったことが上げられていた。昨年と比較して、レポートの質に特別な改善は見られないが、体裁を重点的にチェックするという目的は果たしているように感じている。</li> </ul>				
今後の展開				
<ul style="list-style-type: none"> <li>相談者と相談員がそれぞれ能力向上を実感しており、相談者の多数が継続を望んでいることから、次年度も継続したい。</li> <li>相談員と教員の指導について、違いが生じないような取り組みを検討し、相談員・相談者の双方が技術文書作成能力の向上を行えるようにする。</li> </ul>				